



地整収第 19 号の2  
平成19年5月 7 日

国土交通省道路局長 殿

山形県小国町長 小 野 精



中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

日頃から道路事業についてお世話になり厚くお礼申し上げます。

中期計画の作成にあたり、ご依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答いたしますのでよろしく願いいたします。

## ○重点化を進める上で特に優先度の高い政策

### 国土の均衡ある発展

平成18年12月の閣議決定による道路特定財源の見直しに関する具体策が示された。その中で特に重点的な道路政策としては、安全で安心できる暮らしの確保であると思われる。

中山間地域においては、少子高齢化の進行や人口の減少が著しく、医療圏域、経済圏域などが広域化している。特に本町は、豪雪地帯であり、公共交通手段が都市部と比較して劣悪な環境であり、安全で快適な道路環境の整備は緊急の課題となっている。

また、活力ある地域の構築を図るためには、広域的な社会経済活動を支える道路ネットワークの形成が必要不可欠であり、地域高規格道の新潟山形南部連絡道路の整備促進など、地域の状況に応じた道路施策の展開を望むものである。

## ○効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

効率化を進める上で、地理的条件や利益を受ける人口の多少で決定すべきではない。本町の場合、他地域に通じる道路は国道113号だけである。豪雪や災害等で通行が規制されれば、陸の孤島となり、住民は不便で不安な生活を強いられることになる。このような状況をご理解いただき、真に必要な道路として、新潟山形南部連絡道路を早急に整備し、地域間格差の解消に努めていただきたい。

## ○その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

大都市では「大方の道路整備は終わった。」という認識で議論されているが、自動車交通に大きく依存している地方においては、道路整備は大きく立ち後れているのが実情である。社会経済活動を支える社会資本は道路であり、地域住民にとって年間を通して安全な交通路を確保することは最優先の課題である。特に冬期間のスリップ事故などが多発していることから、急カーブの解消とともに効率的な除排雪を行う上で狭隘な道路の解消が必要である。また、歩行者の安全性を確保するために、通学路の歩道、踏切の拡幅整備が必要と考える。